

滋賀森林インストラクター会

会報・第30号 2022年6月22日



大津市瀬田公園 長尾池と文化ゾーンに続く森 (2022.6.01)

目次

1. 第72回全国植樹祭参加報告	佐々木会長	2~4 頁
2. 滋賀会令和4年度事業計画	事務局	5 頁
3. 石馬寺とその自然	西 有希子	6~7 頁
4. 「大砂川の森」整備活動の近況	事務局	8~9 頁
5. 『沈黙の春』再読 ～『魚はなぜ減った?』を読んで	高橋 優	10~11 頁

～第 72 回全国植樹祭参加報告～

佐々木 建雄



コロナ禍で 2 年延期となった全国植樹祭が、6 月 5 日（日）、鹿深夢の森にて開催されました。滋賀会を代表して、滋賀県緑化推進会の理事という立場で招待を受け、参加したので報告します。

～木を植えようびわ湖も緑のしずくから～の大会テーマのもと、リモートによる天皇、皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、爽やかな天気にも恵まれての開会となりました。



第 72 回の開催理念は、滋賀の地域特性である森～川～里～湖のつながりと、「森林」「びわ湖」「人（暮らし）」のかかわりを再認識し、森林を守り、活かし、これらの取り組みを支えることで、蒼く輝くびわ湖と緑豊かな森林を、次の世代、その次の世代へと持続的につないでいく。となっていて、他の都道府県にはない、森林とびわ湖のつながりを強調しているところにあると思われます。

天皇陛下のお手植え樹種はスギ、トチノキ、アカガシ、皇后陛下のお手植え樹種はヒノキ、イロハモミジ、エドヒガンを、また、お手播きは天皇陛下がクロマツとコウヤマキ、皇后陛下がウツクシマツとホンシャクナゲでした。

お手植え、お手播きのご案内は緑の少年団の子供たちで、リモートとはいえ、天皇、皇后両陛下に直接お声掛けをするわけですから、日頃緑の少年団のサポート事業に関わっている身にとっては、うまくやってくれるのだろうか、と内心ハラハラしながら見ていたのですが、それは杞憂に終わり、少年団の

皆はりっぱにやってくれ、ホッとするとともにちょっぴり誇らしく思いました。

それに先がけ、我々招待者は会場到着と同時に植樹を行いました。樹種は天皇陛下お手植え樹種の一つ、スギですが、これは近江さわやか杉という新種で、花粉の飛散量が少ないという特長を持っています。

今回の植樹祭で植えられた苗は、「苗木のホームステイ」と称して、学校、家庭、職場など滋賀県各地で育てられた苗木で、植樹祭への県民の関心を高め、木を植えることの大切さを認識してもらうために良い企画であったと思います。

式典の総合司会はNHKの野村正育アナウンサー、プロローグ、エピローグのナビゲーターは滋賀県観光親善大使で歌手の西川貴教さんと女優の安蘭けいさん。

三人とも滋賀県出身ですが、アトラクションに参加の人もすべて滋賀の人で、小中高生を中心に、舞踊、歌、伝統芸能などで会場を盛り上げました。

これだけ多くの人が、いつの間に練習をしたのか、よくまとめたものだ、と驚く程次から次へ繰り出す演技は見ごたえがありました。

西川貴教→

安蘭けい→



本植樹祭は、環境への配慮も徹底されていて、例えば招待者に配られた弁当ですが、食材はすべて滋賀県産で地産地消による物流エネルギーを低減。容器は食物由来の生分解性素材使用で環境負荷を抑制。お茶の容器も紙製。箸は比叡山の杉の端材を活用、と環境配慮をアピールしていました。



エンディングは、出演者総出でびわ湖周航の歌を合唱ですが、観客はコロナ感染を考慮し、声を発しないということで、配布された布を振っての参加でした。



今思えば正直のところ、参加には気が重いものがありました。服装はスーツにネクタイ着用、身分を証明するものを必ず携帯、入場の際の金属探知ゲート、参加 10 日前からの検温実施等々…。

しかし、いざ会場に来てみると、思ったほどの負担はなく、ベンチにゆったり一人掛けで式典参加。出演者の演技のすばらしさ、スタッフの皆さんのご苦勞を目の当たりにするにつけ、つくづく参加させてもらってよかったと思います。

得に印象に残ったのは、天皇、皇后両陛下ご退席の際の天皇陛下のお言葉です。

メモも何も見ないで、視線をまっすぐに、まるで滋賀県民に語り掛けるようでしたが、最後に少年団の子どもたちに「くれぐれも体に気をつけて、実り多い学校生活を送って下さい」とねぎらいの言葉がありました。紙に書かれたものではなく、陛下自身のお言葉として、子供たちの心に響いたと思います。

以上

滋賀森林インストラクター会 令和4年度事業計画

滋賀森林インストラクター会事務局

今年度もコロナ対策のため総会を開催せず、Eメールによって事業計画などを会員に承認していただく形を取りました。承認依頼の時点では未定であった日程などを追記し掲載します。

今年度計画の目玉は延期していた近畿連絡会研修会の開催です。会員のみなさまの参加協力をお願いします。尚、新型コロナの流行の影響で計画事業が例年に比べて少ないですが、流行の収まる兆しによっては、復活するイベントや活動があるかもしれません。計画に追加や変更があれば事務局からお知らせします。

事業

日 時	場 所	事業内容等
R04.4月～ (第4日曜)	大砂川の森 (湖南市三雲)	・ふれあいの森作り活動 森林整備と活動ハウス作り
R04.6.05(日)	鹿深夢の森(式典) (甲賀市甲賀町)	「第72回全国植樹祭」 ・式典には滋賀会会長が招待され参加。
R04.7月 ～R05.3月	県内各施設	契約締結(6月) 緑少指導者研修会(少年団連盟主催 7～9月計8回) 「草木遊び」を研修会のテーマとして計画中 緑少個別指導研修会(各少年団主催 通年)
R04.10.23(日)	鹿深夢の森(甲賀市) 油日神社	「こども水源の森サミット」 (県主催の全国植樹祭関連イベント) 本年度も開催される予定。県内各地から緑の少年団が参加。滋賀会に樹木観察指導を委託されるか？

研 修 会

日 時	場 所	事業内容等
R04.04.24 R04.06.26 R04.10.30 R04.11.13	高島トレイル黒河峠 同上 ビラデスト今津 高島トレイル黒河峠	・滋賀会定例研修会 近畿連絡会研修会の下見と準備を兼ねて実施
R04.11.19~20	高島トレイル ビラデスト今津	近畿連絡会研修会(滋賀会主催)
未定	合併記念の森 (京都市京北)	・林業体験研修会(開催されるなら) 京都会の間伐活動に参加

石馬寺とその自然

西 有希子

10 年前の 2012 年から、結婚を機に東近江市にある石馬寺というお寺に住んでいます。

石馬寺は、594 年に聖徳太子によって建立され、現在は臨済宗妙心寺派の禅宗寺院となっています。今年、2022 年の 2 月 22 日が、聖徳太子が薨去されてちょうど 1400 年に当たり、滋賀県、とりわけ東近江地域（近江八幡市、東近江市、竜王町、日野町）が聖徳太子の伝説が日本で一番多い地であることから、聖徳太子ゆかりの他の社寺とともに近江聖徳太子朱印の創設や御開帳など、「和を以て貴しと為す」の精神で協力して聖徳太子 1400 年御遠忌の事業を進めているところです。当山は来年の 6 月と 10 月に 2 週間ずつ、約 70 年ぶりとなる御開帳を予定していますので、この機会にぜひ足を運んでいただけたらと思います。（↓左：御本尊様が納められているお厨子 右：聖徳太子自作の 3 才と 22 才像）



さて、石馬寺は織山（きぬがさやま）の中腹に位置し、この山は西国札所である観音正寺をはじめ、当山を含めた織五山という 5 つのお寺が古くからあるほか、昔、空海が雨乞いをしたと伝わる雨宮龍神社などもあり、神仏の霊山と言えます。また修験の山でもあり、当山には日本三大役行者の一つと言われる、大英博物館でも展示された役行者像なども安置されています。石馬寺は、聖徳太子が仏法興隆の霊地を求めていたところ、乗ってきた馬が急に歩みを止めて動かなくなり、仕方なく傍らの松の樹につないで山を登り、霊気を感じ降りたらその馬が池に沈んでいたことから、聖徳太子が自ら名付けられたお寺です。それだけ不思議なエネルギーを秘めた山なのだろうと思っています。

（↓左：役行者像、 右：台所から見た猪）



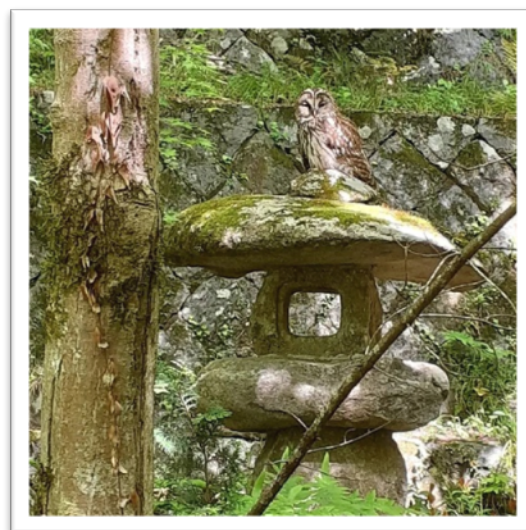
さて、「繖山」と言っても、いくつかのトップがあり、明神山や猪子山などと個別に呼ばれたりします。猪子山の名のとおり、イノシシもいますし、その他に、猿やたぬきなども見かけました。熊はいないということで、住む者としては少し安心しています。蛇やスズメバチが日常的にいる環境ですので、子供のいる親としては心配しています。

(↓左：石庭の上を進むヘビ 右：モリアオガエルのたまご)



この間、朝に本堂を開けに行くと、近くの灯籠の上にフクロウがとまっていました。本堂でお経をあげたりして、さすがにもういないだろうと思いながら建物を出ると、まだじっと動かず同じところにいました。ゆっくりと瞬きしながらこちらを見る姿が、とてもかわいらしかったです。その後、毎朝同じ所を見るのですが、残念ながら見かけません。遠くから、こちらを見ているのかもしれませんが。森を守ってくれよ、というメッセージを伝えたかったのかもしれないと思ったりもします。

(↓灯籠の上に静かに佇むフクロウ)



石馬寺は、かんのん坂という苔むした自然石の階段が魅力の一つなのですが、参道沿いの山が荒れた状態です。この辺りは「石馬寺遺跡」として史跡の指定を受けており、保安林にも指定されています。今年と来年に整備される予定で、山城のような石垣が現れてくると思います。その後は、檀家様や地域の方々の協力を得ながら維持管理をしていく予定です。

石馬寺遺跡の森を美しく健全に保ち、森の活用をしていきたいと思っていますので、また皆さんに色々教えていただけたらと思っています。

今後とも、石馬寺ともども、よろしくお願いします。

「大砂川の森」整備活動の近況

～三雲里山クラブ写真提供～

滋賀会の安田理事が中心になって三雲里山クラブのメンバーで進めている「大砂川の森」整備活動の近況を伝える写真を送っていただきました。安田さんが目指している「子供たちが遊べる森」が徐々に着実に形になっているようです。



森の看板も貫禄がでてきました



作業前のひととき



立木を支柱にしたウッドデッキ



デッキ上部



シイタケの菌打作業



菌打後の原木を並べる

4月7日に子供たちが遊びに来てくれました。



4/07の写真を送っていただいた盛上朱美さんのコメント：「私が3月末まで、湖南省子育て支援センターで働いていました。その時にセンターを利用されていたお母さんのお一人に「森で自由に遊べる場所があるよ。」とお声がけしたのがきっかけです。

森の中で土鍋でご飯を炊いて、子ども達がムギユムギュしながら塩むすびを作り食べ、白ごはんを普段あまり食べない子も沢山おにぎりを食べたのでお母さんはびっくりされてました。枝1つで遊んでいる子どもの姿がとても印象的でした。」



6月19日には「甲西中学校区コミュニティ・スクール」のみなさんが現場の見学に来られました。

(第2の活動場所風呂山での説明風景)

以前、森の幼稚園の活動をされている方が見に来られたこともありましたが、子供たちが森を楽しむ活動の場として、広く利用されることを期待します。

「沈黙の春」再読

～山室真澄著「魚はなぜ減った？」を読んで～

高橋 優

高校生のころ読んだ生物学のジュニア向け教科書に、20 世紀の生物学に革命をもたらしたものがふたつ、一つは 1953 年にネイチャー誌に発表されたワトソン・クリックの論文「核酸(DNA)の分子構造」。もうひとつは 1962 年に出版されたレーチェル・カーソンの啓蒙書「沈黙の春」と紹介されていました。確かに、ワトソン・クリックが遺伝子の二重螺旋の構造を解き明かした論文はその後の分子生物学のめざましい発展をもたらしています。DNA(デオキシリボ核酸)という言葉は誰もが知る言葉となりました。一方、「沈黙の春」は農薬などの化学物質が環境を汚染して自然界の生物を死滅に至らせている現実に警鐘を鳴らしています。全世界が環境汚染に敏感になり、危険な化学物質を製造禁止や使用禁止にする対策を取るようになったのはカーソン女史の功績です。

その「沈黙の春」は 1964 年『生と死の妙薬』というちょっと気取った邦題で翻訳されています。原題 (Silent Spring) は、農薬で野鳥が死滅したため春になっても鳥たちのさえずりが聞こえない様子を表わしており、原題のほうが訴える力が強いので 1974 年以降新潮文庫から『沈黙の春』の邦題で出版されています。学生時代に買った『生と死の妙薬』(1970 年第 12 刷)を再読しました。DDT などの有機塩素系農薬の散布で、汚染された森の鳥類、リスやネズミなどの小動物、川の魚たちの被害例が数多く報告されています。また、散布された農薬が、食物連鎖上位の動物に濃縮蓄積されることや、北半球で散布された DDT が南極に棲むペンギンの体内から検出されるなど、60 年以上前の著作ですが環境汚染の本質的な問題を知らしめています。

『沈黙の春』を再読するきっかけは、東大教授山室真澄著『魚はなぜ減った？～見えない真犯人を追う』(つり人社 2021 年 11 月発行)でした。この本によると DDT などの有機塩素系農薬、パラチオンなどの有機リン酸系農薬が使用禁止・製造禁止になったあと、ネオニコチノイド系殺虫剤が使われるようになりました。毒性の強いニコチンの化学構造を少し変えることにより開発された農薬です。昆虫類には高い毒性があるが、脊椎動物への毒性は低いといわれています。1990 年代から世界中で使用が増えています。しかし、昆虫全般に効果があるため、世界各地でミツバチが大量失踪(死亡?)する現象が起こっていますが、その一因ではないかと疑われています。EU では一部のネオニコチノイド系殺虫剤が禁止されています。まさに、カーソンが提起した問題は現在まで続いているのです。



この本では、宍道湖の漁獲量(ワカサギやウナギ)が減った原因をネオニコチノイド系殺虫剤が散布で宍道湖に流れ込み餌となるミジンコなどの動物プランクトンが減ったためだと仮説を立て、様々なデータから検証しています。つり人社という魚釣り専門の出版社からの発行で、読者が環境や生物学の専門家ではない魚釣りを楽しむ人なので、一般の人にも分かる優しく丁寧な文章となっています。食物連鎖の説明など分かりやすく、森林インストラクターとして一般の方や子供たちへの説明の参考になります。

著者が釣り人を対象にこの本を書いた理由をこのように述べています。「釣り人のみなさまは、水面下で何が起きているのかは、化学分析ができずとも、現場で培ってきた経験に基づいて推察できる。そして、ウナギなりテナガエビなり、それまで普通に釣れていた種や釣り場で見かけていた種が、ある年から説明不能に減少して数年回復しなかったとしたら、それに最初に気づけるのは釣り人だ。」このことは、森林インストラクターにも当てはまります。森林に触れる機会が多い我々は、森の変化や異常を世間より早く気づくことができるはずです。そして、森林の保全に繋がっていくことができるでしょう。

120 頁ほどのソフトカバー、アウトドアや趣味の書籍棚に置かれていました。興味がある方は手に取ってみてください。税込み 1100 円です。

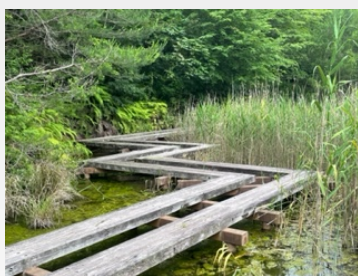
編集後記

会報第 30 号をお届けします。

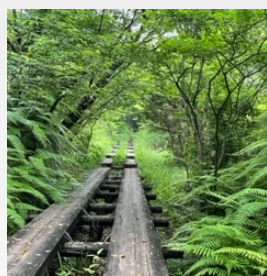
新型コロナの流行が 3 年目に入り「ウィズ・コロナ」での日常生活復帰が求められています。滋賀会の事業計画でも近畿連絡会研修会の開催などコロナ禍以前の活動に戻ることを目指しています。

さて、この上半期滋賀の最大イベントは「第 7 2 回全国植樹祭」です。佐々木会長から植樹祭参加報告を投稿いただきました。また、西会員から湖東の古刹石馬寺の紹介記事など会報に彩りを添えてもらいました。

本号の表紙の写真は瀬田公園の長尾池です。この公園、瀬田駅から徒歩 20 分ぐらいの新幹線と名神高速に挟まれたところにあります。街近くに残された自然の森に散策路が設けられています。定例研修会に使っても良いかなと思っています。



長尾池の木道



森へ続く木道



文化ゾーン近く

(高橋)